

特定非営利活動法人

小野自然倶楽部

代表理事
大方 俊浩



●設立のきっかけ

小野町内において2年続けて不審火による火災で5人の子どもの尊い命が奪われました。他の地域でも自然のなかでの事故などで多くの子どもの犠牲者が出ているため、自然体験、アウトドアスポーツを推進するため2005年に設立しました。



緑とのふれあいの森公園・外観

●団体の目的

小野町を中心とした田村郡地域とその周辺の子どもたちに対し、地元での環境学習、自然体験活動、食育体験を通して、**地域の自然環境保全、自己の危機意識の確立**などを目指して、その意識を次世代まで引き継いでいけるように手助けすることを設立の目的としております。



MTBでの公園内散策

私たちの思い、考え

▶地域の課題

今、日本中で抱えている問題でもあります、この地域でも少子化が年々進んでおります。

団体競技⇒個人競技へ移行推進

原発事故のための
森林体験の減少

屋外での遊びや体験の減少



小学生の肥満が進んでいる
ためその対策が急務

●目指す地域の姿

今後、**若者の人口比率が増えない**

と考えれば、今の子どもたちをいかに成長させるか、そして将来地域の担い手として活躍してもらうにはどうしたらよいのか、まだ結論は出ておりませんが、子どものうちから地域の自然の豊かさや厳しさに触れさせため、マウンテンバイクコース設置として

国有林無料借上げ制度(遊々の森)
を長年申請し、今年度受理されました。

そこでのスポーツや体験を通して将来北海道常呂町のカーリング娘たちのように地域全体で応援できる子どもの育成に関わっていくことができれば最高だと考えます。

活動紹介

1. みどりとのふれあい活動



森林アスレチック



MTB(マウンテンバイク) 体験

2. 食育活動



羽窯ごはん

3. 自然の大切さの育成活動



水生生物・水質調査



植林活動

4. 地域交流活動



和楽器奏者によるワークショップ

地域、住民、ボランティア、 参加者の反応や変化

今、小野町の緑とのふれあいの森公園というキャンプ場が併設された森林公園を委託、管理しております。そこでキャンプに来た親子を観察させていただいておりますが、自然体験が、好きな親に初めは無理やり連れてこれ戸惑い、面白くなさそうな顔をしていた子供が、二度目、三度目と回数を重ねるうちに自分で遊びを考え、森林の中で自由に遊びまわる姿を目の当たりにして、子どもってすごいな～と改めて思いました。一番感じることは、同年代の子どもたちに比べてはるかに子供らしく、そして自分のことは自分でやれる、と感じております。



土鍋コンテスト

地域の大人たちも子ども会行事と称し、公園にバーベキューや芋煮会などに来ておりますが、子どもよりはしゃいでおります。日頃野外で食事をすると言った経験が少ないため親子で楽しそうに話をしているのを見て、やはり親が本心から楽しんでいないと子供も楽しめないんだと改めて思っております。



三世代交流イベント
竹巻パン作り

協働に向けて

活動・組織での悩み 困っていること

マウンテンバイクコース設置と実用に向け、なんといっても、人材の確保と専門知識が必要です。

ある程度初期段階は当法人内で管理指導が可能です。が、競技活動をサポートできるスキルがないので、これからもっと学びたい、競技に出てみたいというような子供が出てきた場合が難しいのと、子どもたちにはそこを目指してほしいと考えておりますのでこれからの課題でもあります。

企業と協働したいこと サポートしてほしいこと

1. マウンテンバイクコースと遊歩道の整備
2. 来春、桜の苗木100本の植林するためのボランティア
3. 競技活動サポートの経験者のボランティア派遣



マウンテンバイクコースのネーミングライツ

桜の木に協力企業や団体・個人の名札の取り付け

企業に向けてメッセージ

私たちの団体は、とにかく子供の将来を見据えて地域での自然体験などを通して地域の良さを感じてもらい、将来この地域において各分野のリーダーとなり活躍し、次世代につないでいくことが大切だと考えます。

このような中山間地域は全国に山ほどありますが、そのモデルケースに成る様な活動を展開するため、勉強をして行きたいと考えておりますのでご指導ご鞭撻も合わせてお願いしたいと考えます。



遊々の森